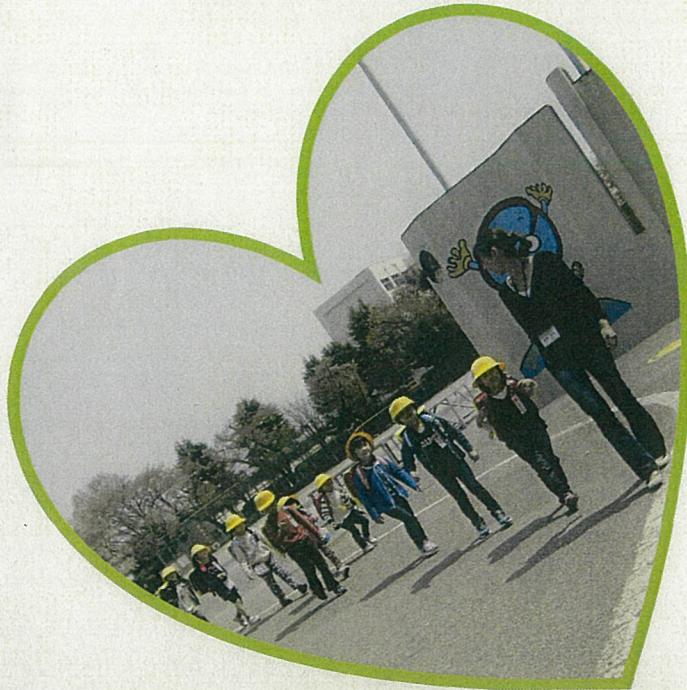
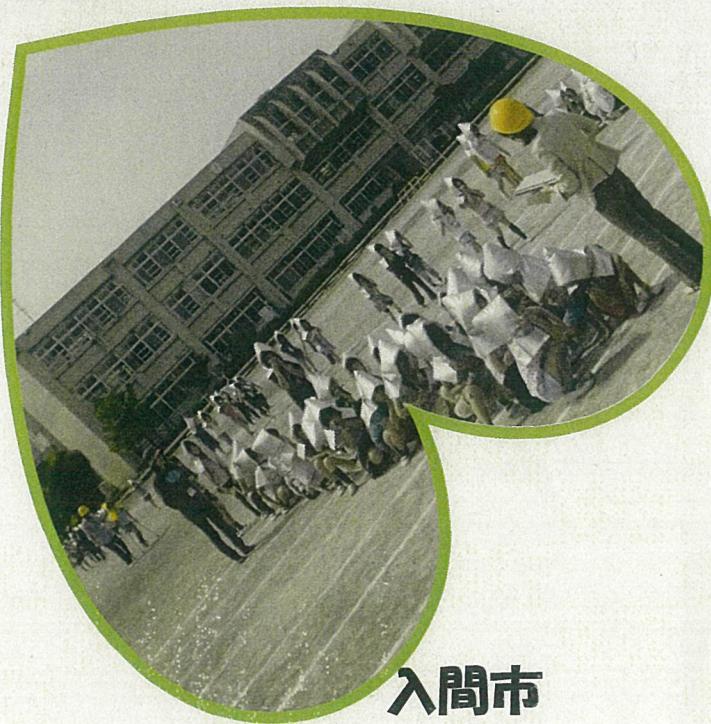


みんなあんぜん



遊びと学びの手引き 安全編



入間市

子ども未来室事業

はじめに

入間市の将来を担う子どもたちは、日々目を輝かせながら健やかに成長し続けています。この子どもたちの命は何にも代えられないくらい大切で、かけがえのない命です。今後、子どもたちが安心して安全に生活することができるよう子どもたちの成長に合わせて支援し続けなければなりません。

この「みんな安全編」は、「遊びと学びの手引き」第2版に、さらに安全を補充するために、新たに付記したものです。内容としては、交通・自然災害・身を守る体作り・安全な学校生活などを載せてています。参考までに、資料も掲載させていただきました。子どもたちが体験しながら身を守る方法を学ぶことができるようご支援くださいますようお願いいたします。

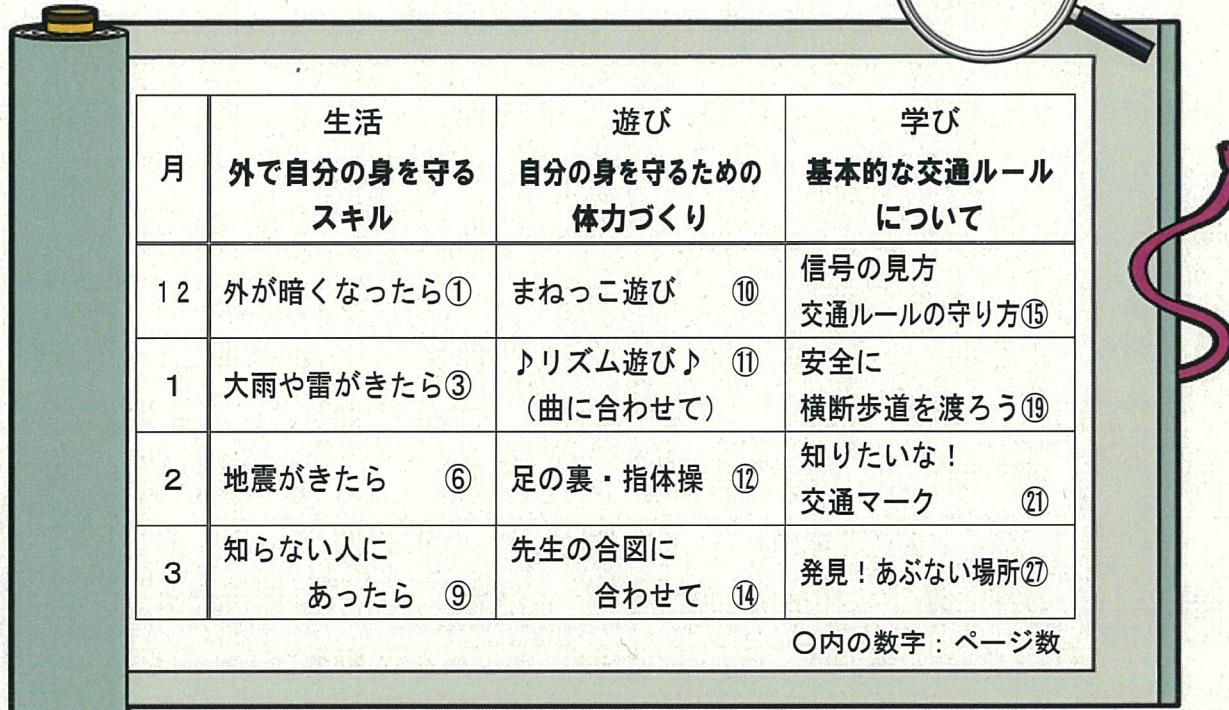
なお、保育園（所）・幼稚園では年長を、小学校では1年生を対象として作成しております。指導・保育時期につきましては、期を捉えて使用していただければ幸いです。

子どもの発達過程	区分	おおむね3歳	おおむね4歳	おおむね5歳	おおむね6歳		
ねらい							
健 康	人間関係	<p>○健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。</p> <p>①明るくのびのびと行動し、充実感を味わう。</p> <p>②自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。</p> <p>③健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。</p>	<p>○他の人々と親しみ、支え合って生活するため、自立心を育て、人と関わる力を養う。</p> <p>①保育所生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。</p> <p>②身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感を持つ。</p> <p>③社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p>	<p>「何でも自分でできる」意識の育ち</p>	<p>【運動機能の高まり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な運動能力が育つ。(歩く、走る、跳ぶ、押す、引っ張る、投げる、転がる、ぶらさがる、またぐ、蹴るなど) 【基本的な生活習慣の形成】 ・食事・排泄・衣類の着脱など基本的生活習慣の自立。 <p>・異なる2つの行動を同時に見える。</p>	<p>【全身のバランス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身のバランスがとれるようになります。 ・運動量も増加する。(片足跳び、スキップなど) <p>【運動機能の高まり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動機能はますます伸び、大人が行う動きがほとんじができる。 ・兎こっこなど集団遊びなどで活躍に体を動かし自ら挑戦するようになる。 ・手先が器用になる。 ・手先が器用さが増す。(つまむ、詰む、そろそろきを絞る) <p>【基本的な生活習慣の確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手先が器用になる。 ・手先が器用さが増す。 ・手先が器用になる。 ・手先が器用さが増す。 	<p>【巧みな全身運動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体的な成熟と機能の発達。(全身)そぞり、跳躍など自信のある活動) ・全身運動がなめらか。(ドリブルで走る、跳び箱、竹馬が可能) <p>【自主と協調の態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己主張と他者の受け容れる態度を身につける。 ・細かな手の動きが進む。
環 境	言 葉	<p>○周囲の様々な環境に好奇心や探求心を持つうとする力を養う。</p> <p>①身近な環境で親しみ、自然とふれあう中で、様々な事物に興味や関心を持った経験をする。</p> <p>②身近な環境で自分の心地よい場所、例えば、それを生活を取り入れようとする。</p> <p>③身近な事物を見たり、考ふたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</p>	<p>○経験したことや考えたことなどを自分なりに表現し、相手の話す言葉を聞こうとする音楽や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。</p> <p>①自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。</p> <p>②人の言葉や語などをよく聞き、自分の経験を語ることや考ふたことを話、伝えあう喜びを味わう。</p> <p>③日常生活に必要な言葉が分かるようになると共に、絵本や物語などに親しみ、保育士や友だちと心を通わせる。</p>	<p>【ごっこ遊びと社会性の発達】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場を共有し、それぞれが独立し遊びます平行遊び。 ・他の子どもの模倣。 ・遊具を仲立ちとした関わり。 ・遊具遊びによる決まりや順番を覚える。 <p>【身近な環境への関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」「わたし」という自我。 ・家族、友だち、先生などの関係が分かる。 ・周囲への関心や注意力、観察力の伸長。 <p>【目的のある集団行動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水、砂、土、草花、虫、樹木など身近な自然環境に興味を示す。 ・手足を使い、見たり触れたりしながら、物や動植物の特性を知り、関わり方や遊び方を体得。 ・仲間の存在がますます重要になる。楽しそう活動するために、役割を果たしたり仲間の中の一人としての自觉心を持った行動ができる。 ・仲間の存在がますます重要になる。楽ししく活動するため、役割を果たし、決まりを守る大切さを実感する。 <p>【環境への積極的な関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会事象や自然現象、文字などへの興味、関心が深まる。 ・遊びの複雑化。 	<p>【全身のバランス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身のバランスがとれるようになります。 ・運動量も増加する。(片足跳び、スキップなど) <p>【運動機能の高まり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動機能はますます伸び、大人が行う動きがほとんじができる。 ・兎こっこなど集団遊びなどで活躍に体を動かし自ら挑戦するようになる。 ・手先が器用になる。 ・手先が器用さが増す。 <p>【目的のある集団行動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物事を対比する能力が育ち、時間や空間などを認識する。 ・目的を持った行動ができる。 ・仲間の存在がますます重要になる。楽ししく活動するため、役割を果たし、決まりを守る大切さを実感する。 <p>【環境への積極的な関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会事象や自然現象、文字などへの興味、関心が深まる。 ・遊びの複雑化。 	<p>【運動機能の高まり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体的な成熟と機能の発達。(全身)そぞり、跳躍など自信のある活動) ・全身運動がなめらか。(ドリブルで走る、跳び箱、竹馬が可能) <p>【思考力と自立心の高まり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会事象や自然現象、文字などへの興味、関心が深まる。 ・遊びの複雑化。 	<p>【巧みな全身運動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体的な成熟と機能の発達。(全身)そぞり、跳躍など自信のある活動) ・全身運動がなめらか。(ドリブルで走る、跳び箱、竹馬が可能)
表 現		<p>○感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。</p> <p>①いろいろな物の美しさなどに対する豊かな感性を持つ。</p> <p>②感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。</p> <p>③生活中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</p>	<p>○絵本や物語などに親しみ、保育士や友だちと心を通わせる。</p> <p>・イメージを広げてごっこ遊び。</p> <p>・大人の行動や日常の経験を取り入れて再現。</p> <p>・予想や意図、期待を持って行動。</p> <p>・絵本に登場する人物や動物と自分を同化。</p> <p>・ごっこ遊びや劇遊びに発展。</p>	<p>【模倣遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージを広げてごっこ遊び。 ・物語を自分なりにつくったり、不思議さ、おもしろさを味わったりして遊びを発展。 ・絵本によつて共通のイメージを持つ遊びができる。 <p>【想像力の広がり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己主張する。 ・様々な言葉に関心を持つ。 ・経験したことや思つてることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。 ・保育士等や友達の話を聞いたり、話したりする。 <p>【豊かな感性による表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語を自分なりにつくったり、不思議さ、おもしろさを味わったりして遊びを発展。 ・絵本によつて共通のイメージを持つ遊びができる。 <p>【表現することの楽しさ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちをわかりやすく、表現したり、相手の気持ちを開く力が育つ。 ・表現しようとする意欲のたかまり。 	<p>【全身のバランス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身のバランスがとれるようになります。 ・運動量も増加する。(片足跳び、スキップなど) <p>【運動機能の高まり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動機能はますます伸び、大人が行う動きがほとんじができる。 ・兎こっこなど集団遊びなどで活躍に体を動かし自ら挑戦するようになる。 ・手先が器用になる。 ・手先が器用さが増す。 <p>【基本的な生活習慣の確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手先が器用になる。 ・手先が器用さが増す。 ・手先が器用になる。 ・手先が器用さが増す。 <p>【目的のある集団行動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物事を対比する能力が育ち、時間や空間などを認識する。 ・目的を持った行動ができる。 ・仲間の存在がますます重要になる。楽ししく活動するため、役割を果たし、決まりを守る大切さを実感する。 <p>【環境への積極的な関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会事象や自然現象、文字などへの興味、関心が深まる。 ・遊びの複雑化。 	<p>【巧みな全身運動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体的な成熟と機能の発達。(全身)そぞり、跳躍など自信のある活動) ・全身運動がなめらか。(ドリブルで走る、跳び箱、竹馬が可能) 	

みんなあんぜん

保育園・保育所・幼稚園編

目次



月	生活 外で自分の身を守る スキル	遊び 自分の身を守るために 体力づくり	学び 基本的な交通ルール について
12	外が暗くなったら①	まねっこ遊び ⑩	信号の見方 交通ルールの守り方⑯
1	大雨や雷がきたら③	♪リズム遊び♪ ⑪ (曲に合わせて)	安全に 横断歩道を渡ろう⑯
2	地震がきたら ⑥	足の裏・指体操 ⑫	知りたいな! 交通マーク ⑯
3	知らない人に あつたら ⑨	先生の合図に 合わせて ⑭	発見! あぶない場所⑯

○内の数字: ページ数

遊びと学びの手引き安全編の活用の仕方

- ① 10分～20分程度 ⇒ 活動内容時間は、幼児の実態に合わせて活用する。
- ② 参考資料 ⇒ 写真画像やイラストが活動案に付いている。
(ワークシートは参考例)
- ③ アレンジ ⇒ 活動案を参考にして、活動を効果的にする。
(外で活動したり、具体物を作成したりなど)
- ④ 保護者への啓発 ⇒ 各施設で安全について指導していることや家庭での安全対策についても呼びかける。
- ⑤ 活用時期 ⇒ 指導にふさわしい時期を選んで活用する。

12月 生活

外が暗くなったら

(健康・環境)



« ねらい »

- 外が暗くなった時の過ごし方を学ぶ。

« 活動 »

子どもの活動	○保育士・教師の働きかけ等 ☆子どもの反応・留意点等
<p>1 外が暗くなる時間は何時かを知る。</p> <div style="text-align: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4時</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○「外で鳴る4時のチャイムは、何のチャイムだろうね？」 ・よい子チャイムを知っているかどうか、確認する。 ☆家に帰りましょうの合図 ☆分からぬ。 ☆市役所で鳴らすチャイム ○「外が暗くなると、よい子チャイムが鳴ります。」 「これは、子どもたちに家に帰るように教えてくれるチャイムです。」 ・12月は、4時によい子チャイムが鳴ることを知らせる。 ・よい子チャイムの音を聞かせ、覚えさせられるとさらによい。 ・4時以降は、暗くなることを教える。 ⇒ 危険が増える。
<p>2 暗くなった時やこれから自分にできることを知る。</p> <p>【実際に練習する】</p> <div style="text-align: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">防犯ブザー</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○暗になった時の過ごし方や自分にできることを教える。 【暗になった時】 <ul style="list-style-type: none"> ・大人と一緒にすごす。(家にいる) ・1人にならない。(大人の手を離さない) ・大人の目から離れるところに行かない。 【自分にできること】 <ul style="list-style-type: none"> ・暗くなる前に、家に帰る。(よい子チャイムを守る) ・防犯ブザーを持つ。 ・子ども110番の家を家人と確認する。 (子ども110番の家は、逃げてもいいところであることを知らせる。) ・午後3時～午後6時までの誘拐が多い事を知らせる。 ・絶対に知らない人について行かない。
<p>3 外が暗くなると、様々な危険が隠れていることを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○外が暗になると、困ったことが起ることを教える。 ・周りが暗くなり、車から見えづらくなる。 ⇒ 交通事故 ・視界が暗くなるので、怖い人が来ても分からぬ。 ⇒ 不審者への対応ができない。 ・大人の目が行き届かなくなる。 ⇒ 迷子や誘拐など

【外が暗くなったら資料】



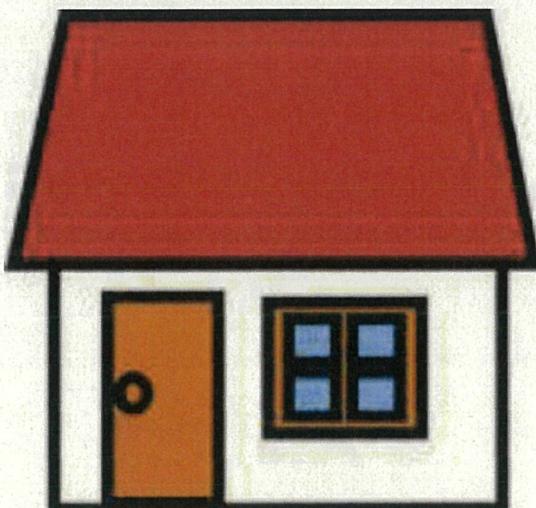
① 手をつなぐ



② 照明のあるところを歩く



③ 大声を出す



④ 家の中にいる

1月 生活

大雨や雷がきたら

(健康・環境)

※命を守るためにの対応策については、家庭でも再確認するよう協力を願う。



《ねらい》

- 大雨や雷から身を守る方法を知る。

《活動》

子どもの活動	○保育士・教師の働きかけ等	☆子どもの反応	・留意点等
1 大雨の怖さを知る。 ○大雨の写真や絵を見せる。		1 雷の怖さを知る。 ○雷の写真や絵を見せる。	
○「かさをギュッと持っていないといけないくらい雨が降っていることを何と言うか知っていますか？」 「大雨と言います。」 ・大雨は降った後に大変な被害があることを教える。 【写真を提示する】 ・洪水（川が増水する）・木が折れる ・浸水・落雷	2 大雨がきたらどうするかを学ぶ。 ○「実際に傘をさして、練習しましょう。」 ・自分の傘を持たせて、練習する。 (傘がない場合は、施設の傘を貸し、傘を持たせて練習する。)	○「みんなは、雷の音を聞いたことがありますか？」 ☆ゴロゴロお空が鳴る。 ☆ゴロッといつて、怖くなる。 ☆音だけでなく、ピカッと光る。	2 雷がきたらどうするかを学ぶ。 ○「ゴロッで逃げます。」 ・雷がきたらどうするかを練習させる。 ・建物や車の中に避難する。 (木の下に行かない。) ・低い姿勢をする。 ・友だちの家ならば、そのまま家にいる。
【家の中にいた場合】 ・外出しない。 ・大人と一緒に行動する。	【家の外にいた場合】 ・大人と一緒に行動する。 ・早めに安全な場所に逃げる。 ・家に帰る。	【逃げてはいけない所】 ・大きな木の下 ・電柱	○「どこに逃げるのかを家人と相談しておきましょう。」

- 「かさをギュッと持っていないといけないくらい雨が降っていることを何と言うか知っていますか？」
「大雨と言います。」
・大雨は降った後に大変な被害があることを教える。

【写真を提示する】

- ・洪水（川が増水する）・木が折れる
- ・浸水・落雷

- 2 大雨がきたらどうするかを学ぶ。
○「実際に傘をさして、練習しましょう。」
・自分の傘を持たせて、練習する。
(傘がない場合は、施設の傘を貸し、傘を持たせて練習する。)

【家の中にいた場合】

- ・外出しない。
- ・大人と一緒に行動する。

【家の外にいた場合】

- ・大人と一緒に行動する。
- ・早めに安全な場所に逃げる。
- ・家に帰る。

- 「みんなは、雷の音を聞いたことがありますか？」
☆ゴロゴロお空が鳴る。
☆ゴロッといつて、怖くなる。
☆音だけでなく、ピカッと光る。

- 2 雷がきたらどうするかを学ぶ。

- 「ゴロッで逃げます。」
・雷がきたらどうするかを練習させる。
・建物や車の中に避難する。
(木の下に行かない。)
・低い姿勢をする。
・友だちの家ならば、そのまま家にいる。

【逃げてはいけない所】

- ・大きな木の下
・電柱

○「どこに逃げるのかを家人と相談しておきましょう。」

※留意事項 疑似体験をさせてみる。(木・電柱・車・家)

かみなり

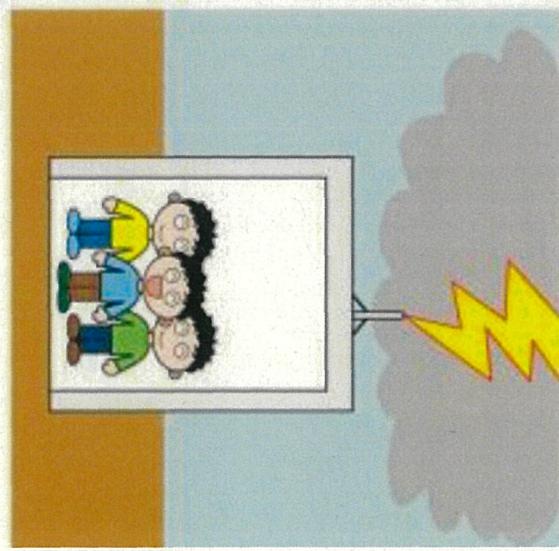
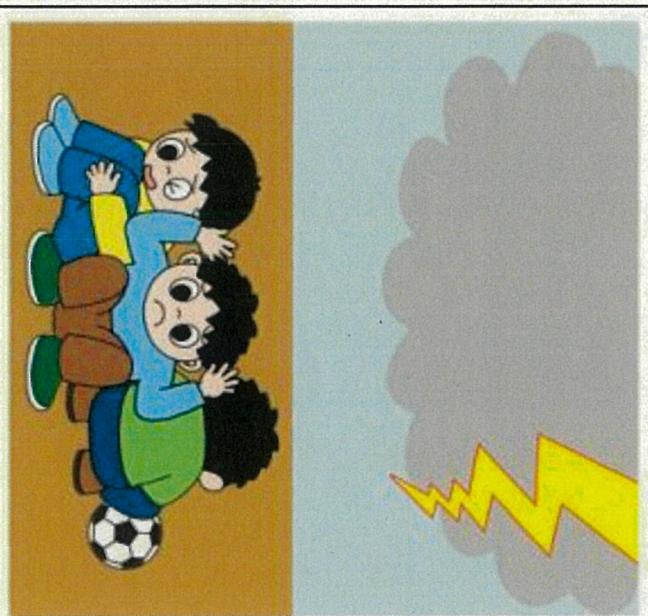


おおあめ



たてもとのなかにいる

ひくいしせいをする



2月 生活

地震がきたら

(健康・環境)

※命を守るための対応策については、家庭でも再確認するよう協力を願う。



« ねらい »

- 地震から身を守る方法を知る。

« 活動 »

子どもの活動	○保育士・教師の働きかけ等 ☆子どもの反応 ・留意点等
<p>1 地震の体験を思い出す。</p> 	<p>○「建物がガタガタと揺れたことがありますか？」 「それって、何と言いますか？」 「これを地震と言います。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震にあった体験を思い出させる。 ・地震が起こった時の写真や絵を見せる。 ・地震は、大切な命をうばっていくこともある、恐ろしいものであることを伝える。 <p>【各施設の避難訓練に合わせるとよい。】</p> <p>○地震がきたらどうするかを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おさない ⇒ 逃げる時にみんなが押したら怪我をするから ・かけない ⇒ 混雑するから ・しゃべらない ⇒ 先生の声が聞こえなくなるから <p>【建物の中にいた場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災頭巾をかぶる。(頭を守る) ・机の下に入る。 ・先生(大人)の言うことを聞く。 ・先生(大人)と一緒に行動する。 <p>【逃げる時の合い言葉】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> おさない かけない しゃべらない </div> <p>【建物の外にいた場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生(大人)と一緒に行動する。 ・たおれたり、落ちてきたりするものから離れる。 <p>○防災頭巾のかぶり方を教える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難の練習を実際に行わせる。 <p>【改訂版 防災頭巾の身に付け方 参照】</p> <p>ガタガタ揺れたら、机の下に隠れよう！</p> <p>落ち着いて避難する</p> <p>家の人们にも、地震が起こったらどうするか教えてあげるよう話す。</p>
<p>2 地震がきたらどうするかを学ぶ。</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">防災頭巾</div> 	<p>○防災頭巾のかぶり方を教える。</p> <p>・避難の練習を実際に行わせる。</p> <p>【改訂版 防災頭巾の身に付け方 参照】</p> <p>ガタガタ揺れたら、机の下に隠れよう！</p> <p>落ち着いて避難する</p> <p>家の人们にも、地震が起こったらどうするかを教えてあげるよう話す。</p>

お



か



し





3月 生活

知らない人にあつたら

(健康・人間関係)

※不審者対応については、家庭でも再確認するよう協力を願う。



« ねらい »

- 知らない人から自分の身の安全を守る方法を知る。

« 活動 »

子どもの活動	○保育士・教師の働きかけ等 ☆子どもの反応 ・留意点等
1 知らない人との関わり方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○「知らない人に会った時、どうする？」 <ul style="list-style-type: none"> ・知らない人に会った時、どうしているかを考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ☆話しかけられて困ることがある。☆あいさつをしてしまう。 ☆話さない。(分からぬ) ・周りに大人がいる場合は、話してもよいが、大人がいない場合は、話さないように指導する。
2 知らない人に会った時の関わり方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○「知らない人に会った時、どうするか覚えましょう。」 <p>【聞かれてくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇を教えて！ (場所) ⇒ 「分かりません。」 ・名前を聞く。 ⇒ 何も言わないで、立ち去る。 ・追いかけてくる。 ⇒ 大声を出す。 ・すれ違いざまに変なことを言ってくる。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 目を合わせないで、逃げる。
3 未然に防ぐ方法を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○知らない人に出会ったり、危険な目に合ったりしないための方法を知らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・大人と一緒にすごす。(家の中にいる) ・一人にならない。(大人の手を離さない) ・大人の目から離れるところに行かない。 ・暗くなる前に、家に帰る。 ・防犯ブザーを持つ。 ○家人と子ども 110番の家を確認するように話す。



12月 遊び

まねっこ遊び

(健康・表現)

« ねらい »

- まねっこ遊びをすることで、体を動かしたり、表現したりする楽しさを知る。



« 活動 »

子どもの活動	保育士・教師の働きかけ等
1 まねっこ遊びをする。	<p>【広い部屋で活動できるとよい。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「まねっこ遊びを楽しみましょう。」 ・上履きを脱いで、楽しい体遊びをすることを伝える。 ※自分で上履きを揃えたり、靴下を上履きの中に入れたりさせる。 <p>○座ったままで、簡単なまね遊びをさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任の動きをまねする。 ・肩をたたく。（トントントン・・・パッ！） ・手を上にあげる。手を下におろす。手を横に伸ばす。 ・右の手をあげる。左の手をあげる。など <p>○立ちあがり、体全体を使ってまね遊びをさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かがむ ・足を開く ・片足立ち（片足でいくつまで立てるか、数を増やしてみる） <p>○手と足を使った動きをまねさせる。（屈伸運動等） ※複雑な動きが難しい場合は、子どもの実態に合わせる。</p>
2 動物まね遊びをする。	<p>○写真や絵を提示しながら、まね遊びをさせる。</p> <p>【動物まねの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うさぎ ・ぞう ・キリン ・アヒル ・わに（腕だけで進む：ハイハイ歩き） ・鳥 (少し高い所からジャンプ！) <p>※床が固い場合は、マットをひくなどして安全に行わせる。</p> <p>○活動中は、子どもたちを十分に褒め、やる気を引き出す。</p>
3 まね遊びバージョンアップ！をする。	<p>○動きのバージョンアップをさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掃除機になろう。 ⇒ 雑巾掛け（雑巾を使用する） <p>○まねっこじゃんけん遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生とジャンケン！ ・勝ったら、○○のポーズ（例：ぞう） ・負けたら、○○のポーズ（例：うさぎ） ・あいこなら、○○のポーズ（例：たぬき） <p>○整理運動をして、体を落ち着かせる。</p>



1月 遊び

♪リズム遊び♪

(健康・表現)

« ねらい »

- 楽しくリズムに合わせて体を動かすことができる。



« 活動 »

子どもの活動	保育士・教師の働きかけ等
1 ピアノに合わせてジャンプする。(太鼓)	<p>【広い部屋で活動できるとよい。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ピアノに合わせて、ジャンプさせる。(太鼓) ○小さい音 <ul style="list-style-type: none"> ・小さく小刻みにジャンプする。(トントントントン…) ○少し大きな音(トーン、トーン……) <ul style="list-style-type: none"> ・少し高くジャンプする。 ○体ジャンケンをさせる。 ♪から～だ ジャンケン ジャンケン ポン！ ♪ <ul style="list-style-type: none"> ・パー(両手・両足を広げる) グー(小さくうずくまる) ・チョキ(両手を腰、両足を前後にする) <p>※先生や友だちとジャンケンする。</p>
2 リズムに合わせて楽しく踊る。	<p>♪アブラハムには7人の子♪</p> <p>アブラハムには7人の子 ひとりはノッポで あとはチビ みんな なかよく くらしてる (たのしく あそんでる) さあ おどりましょう</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 右手→右手 (リーダー → みんな) ② 左手→左手 ③ 右足→右足 ④ 左足→左足 ⑤ あたま→あたま ⑥ おしり→おしり ⑦ まわって→まわって おしまい <p>※その他、♪おにのパンツ♪ など</p>
3 曲に合わせて踊る。	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの好きな曲に合わせて踊らせる。 ○リズミカルな曲を選び、リズムよく踊らせる。 <p>※♪エビカニクス♪ など、流行の曲を楽しく踊らせる。</p> <p>○体全体を使うように、教師がお手本になる。</p>

2月 遊び

足の裏・指体操

(健康)

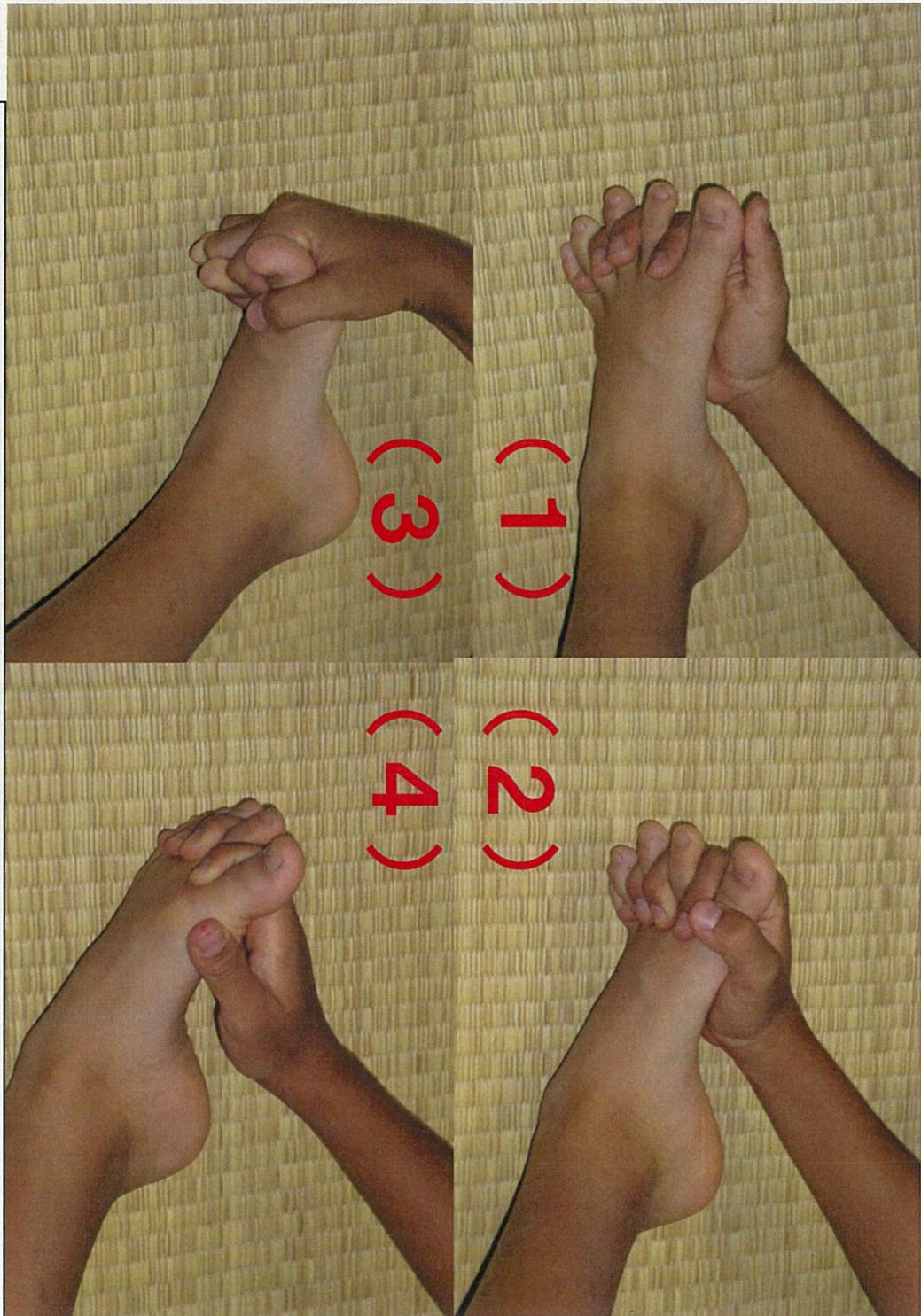
« ねらい »

- 足全体を使って足体操をし、運動能力を上げることで怪我を防ぐ。



« 活動 »

子どもの活動	保育士・教師の働きかけ等
1 上履きを脱いではだしになる。	<p>【広い部屋で活動できるとよい。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○上履きを脱いで、気持ちいい体操をすることを伝える。 ○楽しい活動をするという気持ちをもたせ、関心を高める。 <ul style="list-style-type: none"> ・足体操で、かけっこが早くなる。 ・足体操で、ジャンプが高くなる。 ・とび箱が上手にとべるようになる。 ・転んだりすることが減り、怪我も少なくなる。 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>♪ 魔法の体操 ♪</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 活動に対する意欲を高める </div> <ul style="list-style-type: none"> ○自分で上履きを揃えたり、靴下を上履きの中に入れたりさせる。
2 足指体操をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○写真や絵を提示しながら、分かりやすく指示する。 <ol style="list-style-type: none"> ①足指の間に、手の指を入れる。 ②手の指を握って、ゆっくり足を反らせる。(5秒間) ③柔らかくなると、90度くらいまで曲がるようになる。 ④ゆっくり戻す。これを片足、20回ずつ繰り返す。 <ul style="list-style-type: none"> ○担任は、台の上に上がるなどして、見やすい位置で教える。 ○指示が通りにくい場合は、その子と一緒に台の上に上がり、手助けしながら一緒に活動する。
3 感想を話す。	<ul style="list-style-type: none"> ○「足指体操をして、どんな気持ちになりましたか？」 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちから素直な感想を聞く。 ○活動時間が短くなってきたら、体操の後に簡単な運動を取り入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンプ ・かけっこ ・とび箱 ・平均台 ・足じょんけん(グー・チョキ・パー) ・家に帰ってもできる簡単な体操であることを伝える。 ・日常的に扱い、子どもたちの運動能力を確認する。



- (1) 足の指先を手の指の間に入れる。
 - (2) 手の指で足の指をつかむ。
 - (3) 足の指を甲の方へ伸ばす。
 - (4) その後足の裏側へ伸ばす。
- ※これを交互に5秒間ずつ、5分くらい行う。

3月 遊び

先生の合図に合わせて

(健康・環境)



« ねらい »

- 話を最後まで聞き、指示に従う事を学ぶ。

« 活動 »

子どもの活動	○保育士・教師の働きかけ等 ☆子どもの反応 ・留意点等
1 はっきりとした声で健康観察をする。	<p>○「みんなが健康かどうか先生に教えてください。」「〇〇さん、〇〇君元気ですか？」 ☆はい、元気です！ ☆お腹がいたいです。 ☆風邪です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校に入学する前の指導として、健康観察や集団行動に慣れさせる。 ・友だちが健康観察をしている間は、静かに待つようにさせる。 ・健康観察は、みんなの健康や安全を守るために大切なことを伝える。 ・最後まで静かに話しを聞くことを徹底させる。
2 集団行動の練習をする。	<p>○「ピアノ（太鼓）に合わせて、みんなで動いてみましょう。」 ・ピアノ（太鼓）の音の数がいくつ鳴るかを集中して聞かせる。 【ピアノの曲長で動きを決める。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ゆっくりリズム ⇒ 歩く ② 軽快なリズム ⇒ 走る ③ 曲が止まる ⇒ 止まる ④ 応用編：特定の音 ⇒ いろいろなポーズの指示 <p>【太鼓の数で行動を決める：参考例】（太鼓以外でもよい）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① トン！ （1回） ⇒ 歩く ② トントン！ （2回） ⇒ 走る ③ トントントン！ （3回） ⇒ 止まる <ul style="list-style-type: none"> ・音をよく聞いて動いている子どもを賞賛し、やる気を高める。
3 体の動きを増やしながら集団行動をする。	<p>○「椅子や平均台を使って、みんなで動いてみましょう。」 ・体のバランス感覚や空間認知能力を養うために、様々な道具を使って自分の体について学ばせる。</p> <p>【活動例①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・椅子の下をくぐる。（頭をぶつけない） ⇒ 自分の体の大きさを知る。 ⇒ 怪我を防ぐ。 ・平均台を渡る。 ⇒ バランス感覚及び平衡感覚を養う。 <p>【活動例②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太鼓（ピアノ）の音の数 ⇒ 数と同じ人数のグループを作り、できたら座る。 ⇒ 数と同じだけ手をたたく 又は 足踏みをする。